

若松法人会創立50周年 女性部会創立30周年 合同記念式典

令和2年10月23日(金)
岡垣町 ぶどうの樹



よき経営者を目指す方へ 新たなビジネスチャンス創造の場をご提供いたします



公益社団法人 若松法人会
会長 岡部 憲昭

公益社団法人若松法人会の創立50周年に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

当会は、昭和45年11月、若松の地に産声を上げました。以来50年間、税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し、地域社会の繁栄に貢献してまいりました。その活動は各方面から高い評価を受けるに至っていると自負しております。これもひとえに、税務ご当局をはじめ、関係官庁、地方自治体の皆様のご支援と会員の皆様のたゆまぬご努力の賜物であります。心より感謝申し上げる次第でございます。

さて、少し法人会の生い立ちについて触れたいと思います。戦後間もない昭和22年に、民主的な税制への一環として、従来の「賦課課税制度」から「申告納税制度」へ移行いたしました。しかしながら、当時の社会経済状況は極めて悪く、経営者が難解な税制を理解して、自主的に申告できるか危ぶまれていました。そのような中で、帳簿の整備、税務知識の普及を図る活動をする納税者自身の団体として、企業の中に自主的に生まれてきたのが法人会であります。

当会は、昭和45年に任意団体として170社の会員でスタートしました。昭和58年には、さらに国と社会に貢献する団体でありたいとの思いから、社団法人化しました。そして、平成25年4月には公益社団法人へ移行し、従来にも増して、組織のガバナンスの向上に努め、地域社会になくてはならない存在として公益事業の充実を図ってまいりました。

今後とも、当会は「納税が一番の社会貢献」との信念の下、「よき経営者をめざすものの団体」として、税務知識の普及に努め、企業と社会の健全な発展に貢献してまいります。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中小企業を取り巻く環境は以前にも増して厳しい状況が続いておりますが、会員一同、力を合わせて乗り切って参りましょう。

最後に、若松法人会の益々のご発展と会員の皆様のご健康、ご健勝をご祈念申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。



公益社団法人 若松法人会

女性部会部会長 藤村 由紀子

女性経営者との幅広い交流で 輝きのあるライフスタイルをあなたに

秋風が頬をくすぐるさわやかな季節でございます。

公益社団法人若松法人会女性部会は令和2年11月9日をもちまして創立30年を迎えます。

平成2年11月9日発足以来、法人会親会をはじめ関係の皆様方に支えられ育まれ今日の日を迎えられましたことをありがたく感謝の思いでございます。

歴代の税務署長様方には温かく見守っていただき、親会の皆様には女性部会にいつもご協力をいただいております。

会員相互は異業種であっても同じ女性経営者という目線での信頼と友情を築きました。

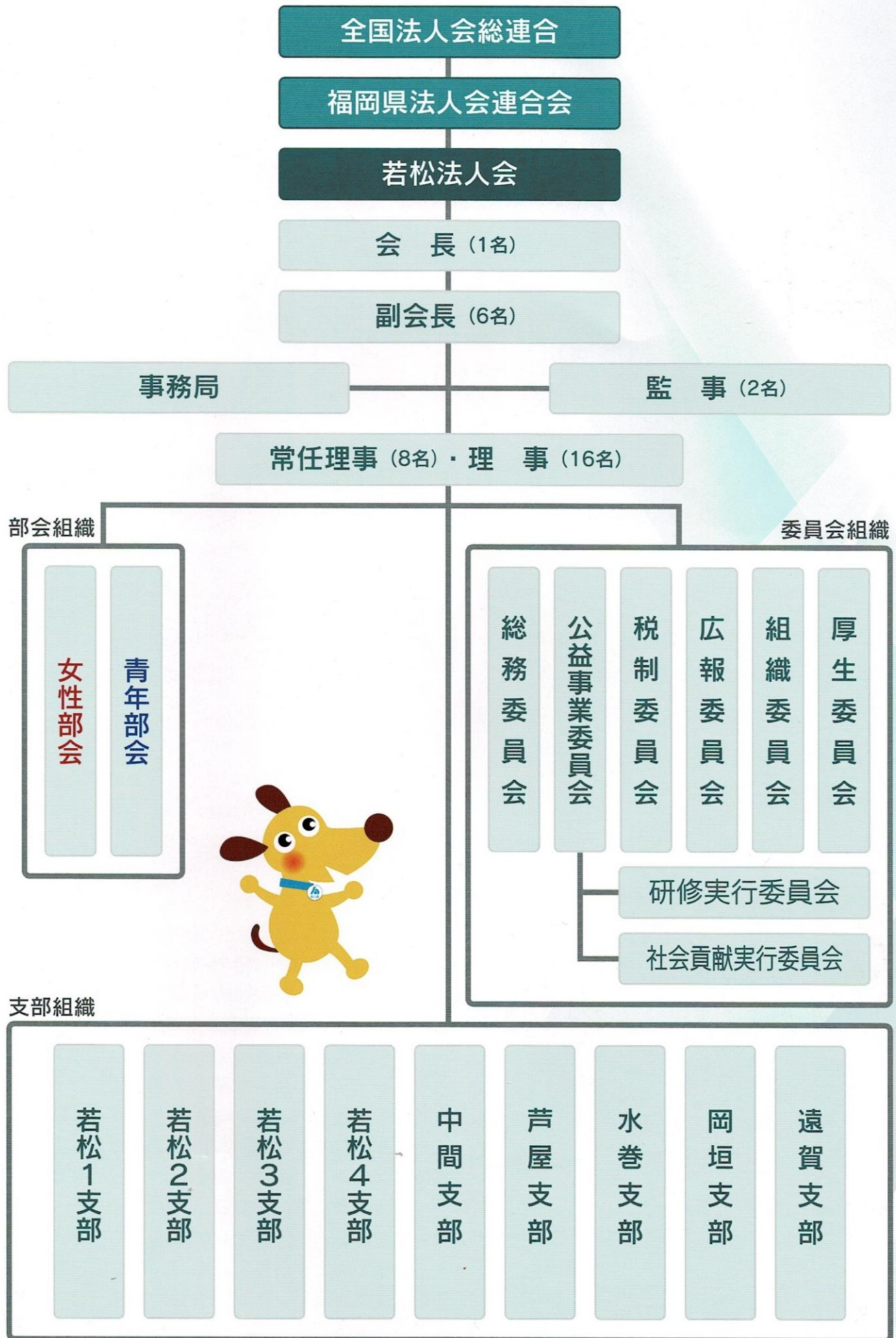
女性部会の活動は小学校への絵はがきコンクール(税の正しい啓蒙)、夏の夕べでのボランティア募金活動、会員の税知識の向上の勉強会などでございます。

これからも福岡県連の女性部会との連携をとりながら、若松法人会の女性部会員と共に更に有意義な会へと尽力してまいりたいと存じます。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(敬称略)

年 代	出来事	若松法人会	女性部会	国内海外
1970年 (昭和45年)	若松法人会創立 初代会長に 植田昌次就任			大阪万国博覧会開催
1976年 (昭和51年)	第二代会長に 山本平八郎就任			ロッキード事件が 明るみに
1981年 (昭和56年)	第三代会長に 篠永逞弐就任			ローマ法王来日
1983年 (昭和58年)	社団法人として認可			ドラマ「おしん」が 大人気
1986年 (昭和61年)	第四代会長に 宮下龍昌就任			チェルノブイリ発電所 事故
1990年 (平成2年)			女性部会創立 初代部会長に 篠原千鶴子就任	東西ドイツが統一
1997年 (平成9年)	第五代会長に 福島晋二就任			ポケモンとたまごっち がブームに
1999年 (平成11年)			第二代部会長に 北代小杉就任	福岡ダイエーホークス 初日本一に
2002年 (平成14年)	第六代会長に 安部雄治就任			通貨ユーロの流通開始
2005年 (平成17年)	第七代会長に 遠藤憲喜就任		第三代部会長に 岩見美知代就任	福岡西方沖地震発生
2009年 (平成21年)	第八代会長に 掛田輝男就任		第四代部会長に 迫田勝代就任	日経平均バブル後最安 値7054円
2013年 (平成25年)	公益社団法人として認可 第九代会長に 中村樹里就任			2020年五輪パラリン ピック東京に
2015年 (平成27年)			第五代部会長に 藤村由紀子就任	マイナンバー制度開始
2016年 (平成28年)	第十代会長に 岡本清嗣就任			熊本地震発生
2019年 (令和元年)	第十一代会長に 岡部憲昭就任			香港で民主化デモ



若松法人会50周年・女性部会30周年 記念座談会

2020年8月18日、岡垣町ぶどうの樹「森と空」において、記念座談会を開催いたしました。

約一時間の熱気あふれるその模様を四頁に渡りお伝えいたします。

テーマ：法人会に入会して良かった事は？

岡部：遠賀信金に勤めていて、主にお客様とのお付き合いが主だったが法人会では初めてお会いする方が多い。そのお付き合いの中で法人会に入って良かったと思ったのは、本当に会員の皆さんが真摯に活動に取り組まれている。その中で一緒に活動することで、本当に信頼できる仲間が増えたなど。もう一つは納税という事の大切さを会員同士で意識を高めていけたこと。それを踏まえて納税ができる立派な会社を造る大切さ。この納税がきちんとできる会社を如何に作っていくか、それを会員同士の交流を通してお互いに切磋琢磨できることを実感できた。この二つが法人会に入会して良かったと感じています。



若松法人会 会長 岡部さん



女性部会 部会長 藤村さん

藤村：実は昨日女性の理事さん達に集まってもらって、食事をしながら話してきたんです。そうすると皆さんが異口同音におっしゃるのは異業種の方たちと本音の話を聞けるのがとてもプラスになった、ということでした。自分一人だと不安になったりどうしようと思う時でも、皆頑張ってると思えば自分も踏ん張れるし又相談もできる。そういう横のつながりができたのは素晴らしい事だと感じました。特に女性経営者ってなかなか少ないんだけど、法人会のつながりでコミュニケーションがとれて色んな人と知り合うことができて、一生の友人ができた。これまでの友達に困ったこととか相談できないし経営のことはなかなか理解してもらえないけど、法人会では同じ目線で話せる友人が出来るんです。細かい説明をしなくても自然に分かり合えて、しかも本音で話せる付き合いができて心地よく感じています。時にはヒントをもらったり、腹のくくり方を学んだり（一同笑い）。



小役丸：実は私が法人会に入ったきっかけは、前々若松法人会会長の中村さんに入会を促されたことでした。中村元会長から教わった中で「納税こそが一番の社会貢献だ」という言葉がいまでも心に残っています。その影響もあってか私の地元、岡垣町では「納税することを誇りに思う」という気風が根付いています。だから幾ら納税できたよっていう話を食事しながら出来る仲間が増えたということが良かったなと思います。



若松法人会 副会長 小役丸さん

テーマ：これからの経営者に望むことは？

岡部：ここ数年で思ったことは職員とその家族の存在が会社経営にとって一番優先順位が高いのでは、ということ。そしてお客様、それから社会貢献、そんな考え方に変わってきた。お客様をだれが大事にするのかというと社員、ということは社員がハッピーでなければお客様をハッピーにすることは出来ない。我々



経営陣が考える会社経営の一番は社員とその家族を第一に考える、それがひいてはお客様サービスにつながる。若い経営者にはそのことを知ってもらいたい。もうひとつはリスクテイク。リスクの語源はラテン語で「船乗り」なんです。船乗りは大航海時代から非常に危険を冒して航海をして、まかり間違えば全部失ってしまう。うまくいけば富も名声も手に入る。だからリ

スクという言葉は船乗りのように挑戦をしていく、ということだったんです。リスクを危険というネガティブに捉えるんじゃなくてリスクをテイクして挑戦するという気持ちを持ってほしい。最後はダーウィンが言った言葉で「生き残る種はもっとも強いものではなく変化に適応したものである」というものがあります。つまり環境の変化に順応できる会社が生き残っていく。そうすると時代の変化、状況の変化にどううまく順応していくかを意識していく必要がある。「今の若い人達は」っていう括りがあるけど、若い経営者と話すと結構アグレッシヴというかモチベーションが高いというか、どんどん挑戦する方も多い。だから今の世代の若者をみていると「いやあ大した物だね」と。炎天下で被災地のボランティアしたり、よほど我々が若い時代の方がいい加減だった（一同笑い）。

小役丸：そうですね。我々は成長してないですよ（一同笑い）。

岡部：自分たちが若いころは経済も右肩上がりでもんもん生活もよくなってきた。でも今の世代は経済が低迷しているのが前提にあって、明日はよくなるとは思ってない。

藤村：私たちは明日は絶対良くなると思って生きてきたんですよ。

岡部：考え方自体が右肩に上がるという考えではない。かといって悲観的というわけでもなく。

藤村：そう。リスクはちゃんと考えてる。

小役丸：北九州市はモノづくりの街という印象があったものが、ここ10年くらいの世の中の動きがモノは外で全部作ってるシステムに変わってきた。おそらく50年後もそうなんだろうけど、そういう急激な変化に対してどうやって対応したらいいのか、そこが悩むところなんです。私の家業は何かというと一般的には旅館業なんですが、私自身は環境適応業と常々考えています。それぐらい環境に対して変わっていかう、順応していかうという気持ちがある。そんな私でもここ10年くらいは環境の変化についていけなくなっている。モノを作らない、農業も後継者不足で悩んでいる。世の中で注目を浴びてる世界と全体を下支えしてる世界の間にあまりにもギャップがあるのではないかな。

テーマ：新型コロナウイルス禍での生活スタイルとは？

藤村：もう with コロナで共存して生きて行くしかないんでしょうね。うちの会社も4月の半ばから5月いっぱい休業したんです。その間、ずいぶん悩みましたが「今は逃げずに頑張ろう」と腹をくくりました。そうしているうちに政府や自治体の支援策も充実してきてスタッフも頑張ってく



れるので信頼関係も強くなり、お互いのことを考えながら仕事をする気運が出てきました。若い人たちは我々にはないエネルギーを持っています。私はその力を信じていきたい。

小役丸：働き方が変わってきて、いまワーケーションという言葉がでてきている。生産現場以外ではこれができる環境になってきた。そうするとそれを生かして観光業というものが残っていけるかもしれない。もうひとつグリーンジムというものがあって半日農業をして半日パソコンに向かって仕事する、これは農業に携わるものとしては面白いことができるのではないかと。そういうソフトの部分とハードの部分との組み合わせがいまから起きてくるかもしれない。

岡部：今の話を聞いてると、コロナだからって話ではないのかもしれない。コロナが収束して世の中が元に戻ってもそういう取り組みは続いていくのではないかと思います。ほんとにコロナの今の状態がずっと続くのかということと過去の歴史、スペイン風邪なんかを見ても必ず収束するんです。そうするとやっぱり人と人とのつながりが大切になってくる。ネットだけですべてを完結させることはできない。だから今人と接触できなくてもそこまで悲観的に考えないで一、二年我慢すれば戻ってくる。このコロナをいい機会ととらえてその先を考えるべきじゃないかと。一般的には人口が減ってきて各自治体も定住政策とか一生懸命やっている。でもそれは無駄だと思う。人口は間違いなく減る。減ることを前提とした街づくりを考え、そこに事業展開をのせていく必要がある。



藤村：人口が一億を超えたのはここ数十年。だから人口が減ってもやっていけるんじゃないかと思うんです。

岡部：年金制度も医療保険も拡大を前提に計画してるから、いざ減ったときに対応できない。でも人口が少ない国でも豊かなところはいっぱいある。やはり100年を見据えた街づくりが必要。

テーマ：今の子供たちに何を残していきたいか？

藤村：お金ではなく子供達が誇れるような国、未来に希望が持てる国、そして平和な国。この三つを残したいという女性部会の話になりました。

小役丸：豊かさの定義が変わってきてるような気がします。豊かって何だろうってなったときに今まではモノを持ってること即ち豊かさだったけど、今は少し違うんじゃないかと。

岡部：そこそこ物質的に豊かで経済的基盤、仕事がある。そして一定の収入がある社会じゃないといけない。ほかの国では満足に食べれなかったり子供たちの病気のケアもできない世界だってある。だから国として一定の経済的な基盤を維持するシステムは必要なんだろうなと思います。

—— となると生活基盤を支える税金の役割、そして納税の大切さ、この部分が大切という事になりますね。

藤村：そして税金の使われかたにももっと私たちは関心を持つ必要がありますね。

小役丸：いろんなところで予算という言葉を使うけどそれはすべて皆さんが納めた税金をさすわけで、どこから降ってくるわけじゃない。だから皆の税金、大切に大事に使わないといけない。

—— そのためにも私たち法人会は税のオピニオンリーダーとして、これからもしっかり皆様のために務めていかなければならないと決意を新たにしました。本日はありがとうございました。



座談会メンバー：左手から 石本広報委員長、小役丸副会長、岡部会長、藤村女性部会長、千々和総務委員長

若松法人会

活動紹介



一日も早い災害の復興を願って
チャリティー事業を毎年実施



税に関する情報発信と地元企業のご紹介
毎月 AIR STATION HIBIKI で
ラジオ番組放送



小学校での租税教室で
税金のしくみと役割を講義



命を救うため、
いま自分たちに出来る一步
各地で献血支援活動を実施



他にもボランティア活動や地域貢献
など全力で取り組んでいます！

女性部会

活動紹介



毎年絵葉書コンクールを実施
租税教室と連携して税金の大切さを
知るお手伝いをしています



女性経営者の強みを生かして
親しまれる法人会を
目指しています！



健全な経営
正しい納税
社会に貢献



公益社団法人

若松法人会

〒808-8585 北九州市若松区本町1丁目13-15

TEL (093)761-5062 FAX (093)751-7730

<http://www.w-hozin.jp>

